

ありがとう・さようなら

米田小学校

132年の永い歴史に

終わりを告げ：

春の陽気が射しこむ3月20日、米田地区と共に歩んできた藤里町立米田小学校（五十嵐馨校長）の閉校式が同校体育館で行なわれ、132年の永い歴史に終わりを告げました。

式典には、児童や職員、PTA関係者や米田小を巣立った地域住民、多くの児童を育て上げた旧職員、来賓など約250名余りが参加し、最後の思い出をつくりました。



いつも見守ってくれていた校舎



最後の校歌斉唱

閉校式では石岡町長より「長い伝統を築いてきた米田小学校ですが、ついに132年の永きに渡る校史を閉じる時を迎えました。これまで幾多の優秀な人材を輩出し、地域と共に歩み、地域の宝である子ども達を核に、みんなが集い、教育・文化を育んできました。米田小学校が廃校されても、地域の方々と共に築いてきた歴史と伝統と、それを支えた温かい心情は永遠に輝き続け、絶えることなく受け継がれていくものと確信しています」と式辞が述べられました。

続いて来賓の佐藤卓哉山本出張所長、田代孝彦町議会議長、加藤陽一PTA会長よりそれぞれあいさつが述べられ、五十嵐馨校長より「米田小学校の子どもたちは真つすぐでした。地域の皆さんや保護者の方々も熱心で強力な後押しがありました。地域がつくり育て、結びつき、まさに『おらほの学校』でした。長い間、地域の皆さま、保護者の応援ありがとうございます。米田小学校ありがとうございます」とあいさつが述べられました。

その後は、児童による歌や踊りで米田の四季や躍動、未来などを表現したほか、全員による最後の校歌斉唱では、ハンカチで涙をぬぐう姿も見られました。



永い歴史を振り返る



永い歴史を振り返る

最後に児童を代表して安部俊太郎くん（下根城）が「これからも僕たちの頑張りを見守っていてください。米田小ありがとうございます、さようなら」とあいさつすると、会場から大きな拍手がわき

起こりました。

式典後は校庭で記念碑の除幕式が行われ、米田小学校のYの字をかたどった台座に「白神山地の麓すばりっ子が巣立った米田の大地いつまでもここにあり」と刻まれた記念碑が姿を現し、参加者は最後の別れを告げていました。



安部俊太郎くんがあいさつ



建立された記念碑